

モノを大切に使い続ける知恵いろいろ

今の若い世代とは違い、私達の世代は戦後のモノ不足の時代に育ったこともあり、「モノ信仰」というか、モノが豊かになると生活は良くなる、科学技術が発展すれば社会は良くなると信じていました。

どちらも間違っていたわけですが、モノを大切にすること、修理して使い続けることには別の意味で価値があると思われまます。

モノの背後にある世相とか設計者の意図などはなかなか面白いですし、モノにもよりますが、その時代にピークを極めた代物もあって今後それを超えるものはもう出来ないだろうという場合も多いのです。

モノを大切にする場合、最初に持っていただきたい基本的な認識は次のようなことです：つまり人間が作り出したモノの寿命はとても短いということです。

ごく僅かな例外を除けば、きちんと手入れをしたとしてもモノの寿命はせいぜい数十年、建物とて例外ではありません。人が住まなくなった住宅などあつという間に朽ち果ててしまいます。

そこで、モノを大切にするための始めの一步です。

まず取説を改めて読んでみます。そして出来るだけ設計者の意図に沿った（正しい）使い方、より適切な使い方をする事に努めます。

ただし、この取説というヤツ、今も昔もロクな出来じゃないし、そもそもその時代に常識だったことは、いわば暗黙の了解事項ということでわざわざ記載などしません。

次の一步はそのモノを「目一杯使いこなす」ための工夫をすることです。

これが出来ればモノに対する愛着もわいてきます。他の人では出来ないやり方なら尚更です。場合によってはメカニカルな機構に対して（グリスアップではなく）シリコンオイルを用いた潤滑処理（摩擦の低減）、防錆処理をあらかじめ施すことも効果的です。

途中経過はいろいろですが、遂にそのモノの製品寿命が来た場合はどうするか？です。その製品を使い続けたいという気持ちがあつても、修理費用が高い場合は「買い替え」を選択せざるをえません。

あらかじめそのモノに対してどのような対応が出来るかを検討しておくことは賢明だと思われまます。

さて、次に幾つかの事例を述べまますので、それを通してモノを大切にする方法のヒントをつかんでいただければと思います。

1 オーディオ機器

現在の私が最重要視しているのはその機器の耐久性です。メインシステムの機器は基本的にアキュフェーズの製品にしていますし、サブシステムの方は定評のある中級機を選んでいきます。どちらもかれこれ10年以上使用していますが、動作に関して全く問題は起きていません。

ただしアキュフェーズのパワーアンプP-7100のメーターランプが片方切れてしまいました。メーターランプの寿命について取説では説明が無かったので、動作時点灯にしておいたら2年4ヶ月で数千時間という寿命に達してしまったわけです。3年という保証期間内なので基盤ごと無償交換になりました。現在は動作時消灯としていますから、ランプ切れという問題はもう起こらないはずです。

10代の頃の私達は使えるお金の範囲内でコスパ（C/P比）最重視、性能重視でした。

それで一番ヒドイ目に遭ったのは弟が買ったディアックのサンパチ2トラA-7300RX、モーターの軸受がダメになって何度御茶ノ水の修理受付まで運んだことか。

これはトランスポートとアンプが分かれていますけど、総重量は約40kg。若かったから運べたようなものです。結局メーカー修理終了となり、もろもろの付属品と一緒に近くのゴミ捨て場行きとなりました（アツという間にどなたかが持っていっちゃいました）。

それ以来ディアックの製品は勿論、エソテリックの製品も絶対に買いません。

そういえばもう10年以上前の出来事ですが、北浦和駅西口近くにジャズ喫茶が出来て、そこはエソテリックのCDプレーヤーを使用していました。しかし僅か数年でトレイの開閉が出来なくなり、ソニーの製品に入れ替えていました。

また特に気をつけたいのが海外製品です。ジャズファンには「ブルーアイズ」として人気があるマッキントッシュのアンプはメーターランプが切れても修理手続きと費用が大変です。今の修理会社は個人からの修理受付をしていません（販売店からの依頼のみ）。

個人間取引で製品を入手した人は一体どうすればいいのでしょうか。

さらにビンテージ品と言われる製品のメンテナンスはもっと大変です。例えばマランツ7やマークレビンソンのプリアンプLNP-2。もう正規の交換部品はありませんから、単なる部品取りのためだけに同機種ジャンク品をストックする羽目になります。何しろ下手な部品交換をするとサウンドが変化してしまうそうですから・・・他に方法がありません。

私としてはこうした神経質な回路設計の製品より全体としてもっとおおらかな製品の方が好ましいと思っています。

まあ、いずれにしても電源回路などのコンデンサーは経年劣化することが宿命です。もしそうした部品の交換だけで延命出来れば、これはもう「ベスト」と言っていると思います。

オーディオ機器に限ったことではありませんが、長期にわたる動作の安定性はとても重要です。

2 カメラ

私のところには中学生の時に父に頼み込んで買ってもらったオリンパス PEN-D2 というハーフサイズのカメラと後にアルバイトをして購入したニコン F2 (+交換レンズ群) というフィルムカメラがあります。

F2の方はチタン製のフォーカルプレーン・シャッター幕を曲げてしまいメーカー修理に出しましたが、D2については特に修理などした事は無かったと思います。

余談になりますが、当時の私は解像度が凄いいという理由でキャノンのレンズが羨ましかった。F2のボディーは頑丈かもしれませんが、ニコンのレンズ描写は何となく「甘い」なあと感じていたからです。

今から思えば、ミラー・アップして三脚か一脚を使って撮ればニコンでもエッジの効いた写真を撮れたのかもしれませんが。「腕」が無いなら無いなりに工夫と努力をすべきでした。

確かにミラーショックがある一眼レフはスナップ写真には向かなくて、音と振動が小さなレンズシャッターカメラの方に分があるのですが・・・一眼レフでどうすれば撮りたい写真を撮れるのか工夫の余地はいろいろあったに違いないと思っています。

さて、D2の方ですが、測光メーター用電池はとっくに生産終了となっているので市販のアダプターを介して現行のボタン電池を利用しています。しかしどうもメーターのCdSの感度ががた落ちになっているようです。

メーカー修理は出来ませんので町の修理屋さんをネットで探しました。

そもそも現在フィルムカメラは仕事でも全く使っていないので、何故修理をしたいのか自分でも疑問、記念品・文化財だと思えば思えなくもないといったところです。

自分でもどうかしているんじゃないかと思ってしまう。

もっとどうしようもない事例は、D2と共に使っていた東芝の「フラッシュ」(ストロボではありません)、発光のためには22.5Vの電池が必要ですが、そんなものはもう世界中どこを探してもありません。オーディオで使う真空管とは大違いです。

必要な電池や充電機が無くなれば手も足も出ません。

ソニーのガム電池がそうでしたし、ガラケー用の電池パックも最早風前の灯です。

西武新宿線・高田馬場駅から少し先に新井薬師前という駅があり、そこから歩10分位の所に「東京フィルムカメラ修理工房」という個人経営の店があります。そこでメーターのCdS交換をお願いしました。清掃もやってくれて¥18,000、4~5ヶ月待ちです。その店のご主人は脱サラだそうですが、まだ若いからF2のメーター(これもCdS)の感度が落ちた場合には調整作業をお願いできそうです。

フィルムカメラは基本的に機械式なので、測光メーターがダメでもバッテリーが切れても撮影は可能です。これがデジカメと比較したときの優位点です。

3 腕時計

腕時計もやっかいです。機械式の置時計ならシリコンオイル・アップで実用的な修理を自力で出来るかもしれませんが、腕時計の場合はお手上げ、専門知識と経験そして専用工具が必要になります。

(1) オメガ自動巻シーマスター

1980年、私はイラクで仕事をしていまして、こうした地域ではクウォーツ腕時計の電池交換は出来ないと考えていました。

そこで、日本に一時帰国した際、給油のために立ち寄ったバンコク国際空港の免税店で調達したのがこのオメガでした。当時の日本では丸の内にあったシーベル商会？がこの時計のメンテをしてくれましたが、今ではもうありません。

最後のメンテから30年経ち、時計が遅れるようになってこの時計をどうしようか迷いました。

重要な部品がダメになっている場合、これはスイスへ送られ修理にかなりの費用と時間が掛かります。

散々迷った末、分解清掃とパッキンの交換をネットで見つけた「K.K.カネコ商会」に依頼、費用は¥49,000でした。この製品はもう「オールド・オメガ」扱いです。最近のオメガと比べると費用はかなり割高になっています。

メンテの結果は大変素晴らしく、+1秒/日といったところです。

シーマスターはその殆どが丸型で、こうした角型は珍しいし自動巻にしては薄くて軽い。次のごつくて重いグランド・セイコーよりずっと使い易いのです。

(2) グランド・セイコー機械式

このGSは最初からトラブル続き、何度も無償修理をしてもらっていましたが。今回は転倒事故でバンドを壊してしまった事もあり、初めて有償で全面的なメンテをお願いしました。勿論メーカー修理です。費用は¥121,824、結果としての精度は+5秒(±1秒)/日、この機種としてはまあ通常のレベルです。

(3) セイコー・クウォーツ 7A28

これも旧くて30年選手です。今まで電池交換だけしてきましたが、突然ストップ・ウォッチ機能がおかしくなりました(電池切れのせいかと思いましたが、そうではなくてホコリ化した潤滑油によるメカニカル・トラブルが発生していたのです)。

電話帳でようやく見つけた北浦和駅東口平和通り商店街の山口時計店のお爺さんが分解清掃をしてくれまして、あっけなく復活しました。費用は電池交換、パッキン交換も含め¥30,000。

この製品もメーカー修理はとっくに終了しているので、とにかく昔ながらの時計店で復活出来たことはラッキーでした。もう時計職人のなり手がいないそうで、たぶんこの時計にとっては最後のメンテナンスになりました。

今や電池交換不要の光発電+バッテリーの電波腕時計が1万円という時代です。腕時計を修理をしてまで使おうという人はまずいないのでしょうか。それどころか腕時計はもう不要だという人すらいます。

しかし、これとは真逆になりますが、世の中には1個数百万円もするハンドメイドの腕時計コレクターがいらっしゃる。

そういう人達がどうやって時計のコンディションを維持しているのか不思議に思っています。機械式時計は定期的に動かす必要があるし、もし修理するとなったら普通の時計職人の手には負えません。

やはりそれを作ったスイスの職人へ送らざるをえないでしょう。一体どの位の費用が掛かるのか見当もつきません。

標準的な腕時計があるとはとても思えませんが、もしあるとすればそれは昔ながらの機械式で決して高価な製品ではないような気がします。

4 住宅の器具など

築25年の住宅ともなるとメーカー修理不能の器具が続出します。

例えばキッチンの混合栓、メーカーでは器具そのものが廃番になっていて部品がもう無いのです。こうなると混合栓そのものを交換するしか手がありません。

TOTOの混合栓の場合、10年程前に中のカートリッジを自力で交換しましたが、もうヤル気は無いし、パッキンはダメになっているし、擦り減った部分は修復不可能です。

仕方がないので¥36,000で全部交換という途を選択しました。

しかし昔からある「蛇口」の場合は部品も健在、ホームセンターで簡単に安く入手可能です。これって一体どう理解すればいいのでしょうか。

また浴室のドアもダメになりまして、特殊な設計で特殊な部品を使っていることもあり、ドア枠も含めて全て新しくしなければならなくなりました。しめて¥123,000です。

またダメになった家電品は枚挙にいとまがありません（交換したって寿命は10年）。

こんな具合だから、昔と比べて生活がよくなったとはとても思えません。

なおこれだけは絶対導入しないぞと心に決めているのが「全自動トイレ」。これは実質的に家電品と同じだと思っています。故障した基盤の交換はおそらく10万円位？それでも交換基盤があればまだいい。本体ごと交換となれば30~40万円かかることでしょう。

この他 10 年毎に実施している壁・屋根の塗装、20 数年で寿命が来たベランダの防水層などなど、手入れをしなければならない箇所は多々あります。

意外だったのは基礎のコンクリート、これは思いの外風化していませんでした。

自分で出来ること（ドアハンドルのシリンダー交換など）は出来るだけ自力でやるようにしていますが、それにしても建物の健全さを維持することはベラボーに大変です。それにたとえベストを尽くしても全体としては劣化を免れません。

いろいろ経験すると、出来るだけ標準的な器具を選択しておくことが住宅の長寿命化に役立つということがよく分かります。

まとめ

モノを維持して使い続ける大変さが分かってくると、「断捨離」とまではいなくても、出来る範囲でモノを減らすことが必要だと実感します。

しかし一方では、ついついいろいろなモノを作り出し、作り出しては廃棄し、性懲りも無くまた作り出すのは人間の宿命かもしれないとも思えます。

なぜなら、人間自体はほとんど何も変らないのに、様々な環境変化に対応出来たのはこうした能力のお陰だからです。

モノとどう付き合うかは、人間である以上、真剣に考えた方がよいと思います。

まずは何種類かの付き合い方を想定、消耗品扱いでないものについては「選択と集中、そして継続」のための方策を探ります。

あらかじめ「方策を」考えることはモノの選択にもフィードバックされるはずで

す。また所定の性能をフルに発揮させることはモノと人間に対するより深い理解と愛着にもつながりますし、ご自身にとっても「とてもお得」と言えるのではないのでしょうか。

以上